

28年2月分 構造用集成材工場の荷動き・価格先行き動向調査1

1. 調査実施期間 平成28年 2月1日～ 28年2月10日

2. 調査実施方法

全国の構造用集成材工場に対し、アンケート調査票を送受することにより実施した。
2月分の回答企業数は8社である。

3. 判断指数の算出方法

各調査項目について以下の方法でウェイト・ディフュージョン・インデックスを算出した。

Weight.D.I.(ウェイト・ディフュージョン・インデックス)={「増加」の評価を行った回答の割合}×2+{「やや増加」の評価を行った回答の割合}-{「減少」の評価を行った回答の割合}×2-{「やや減少」の評価を行った回答の割合}÷2
したがって、この割合がゼロの場合はその増加と減少が等しいことを示し、プラスになるほど増加が多く、逆にマイナスになるほど減少が多いことを示す。

4. 調査結果の概要

(1) ラミナ荷動き動向 Weight. D. I.

品目		28/2月	3月	4月
入荷動向	国産材	0.0	14.3	0.0
	外材	△ 25.0	△ 33.3	10.0
在庫動向	国産材	0.0	17.9	0.0
	外材	△ 25.0	△ 25.0	10.0

・国産材ラミナの入荷及び在庫は2月の横ばいが、3月は増加、4月は横ばい。

・外材ラミナの入荷及び在庫は2月、3月の減少が、4月は増加。

(2) ラミナ購入価格動向 Weight. D. I.

品目	28/2月	3月	4月
国産材	0.0	0.0	0.0
欧州材	△ 10.0	△ 10.0	0.0
その他	0.0	0.0	0.0

・国産材及びその他ラミナの購入価格は、3ヵ月連続して横ばい。欧州材は2月、3月の弱含みが、4月は横ばい。

モニターからのコメント

(ラミナ荷動き)

・スギは前月同様、入荷は横ばい。カラマツは、岩手県産ラミナの入荷量は横ばいであるが、北海道産ラミナは天候等の影響もあり手当て出来る量が減っている。在庫は、スギは横ばい。カラマツは1月から2月のラミナ調達量が減少しているため在庫も減少、翌月からは正常化する見込み。
・外材は、2月に入って出荷が多く4月にまとまって来る。このため在庫は4月に増加する。
・市況に一服感あり、積極的な仕入見込みではない。市況の落込みと共に少し在庫が増えてくるだろう。
・外材（輸入材）で一部不足気味な品があるようだが、今のところ不便はない。

(ラミナ価格動向)

・スギ・カラマツ共に横ばい。
・欧州材、3月着分は下がる。
・製品の価格について変動は見込めない。よってラミナ購入価格も横ばいとなる見込み。
・1月末位から受注が伸びない。

28年2月分 構造用集成材工場の荷動き・価格先行き動向調査2

(3) 構造用集成材荷動き動向 Weight. D. I.

品目		28/2月	3月	4月
生産動向	国産材	△ 6.3	0.0	6.3
	WW集成管柱	△ 37.5	△ 12.5	12.5
	RW集成平角	△ 20.0	0.0	20.0
	米マツ集成平角	△ 12.5	0.0	12.5
	WW集成平角	—	—	—
出荷動向	国産材	△ 12.5	0.0	6.3
	WW集成管柱	△ 37.5	△ 12.5	12.5
	RW集成平角	△ 20.0	△ 10.0	10.0
	米マツ集成平角	△ 12.5	0.0	0.0
	WW集成平角	—	—	—

・集成材の生産は、全品目で2月の減少が、3月は横ばいないし一部減少で、4月は全てで増加。

・集成材の出荷は、全品目で2月の減少が、3月は横ばいないし減少で、4月は米マツ集成平角の横ばいを除いて全品目で増加。

(4) 構造用集成材出荷価格動向 Weight. D. I.

品目	28/2月	3月	4月
スギ集成管柱	0.0	0.0	0.0
ヒノキ集成柱	△ 25.0	△ 25.0	0.0
ヒノキ集成土台	△ 16.7	△ 16.7	0.0
カラマツ集成土台	0.0	0.0	0.0
WW集成管柱	0.0	0.0	0.0
RW集成平角	0.0	△ 10.0	0.0
米マツ集成平角	0.0	0.0	0.0
WW集成平角	0.0	0.0	0.0
米ヒバ土台角	△ 25.0	△ 25.0	0.0
カラマツ集成平角	0.0	0.0	0.0

・スギ集成管柱及びカラマツ集成土台は、3ヵ月連続して横ばい。ヒノキ集成柱及び集成土台は、2月、3月の弱保合が、4月は横ばい。

・WW集成管柱、米マツ集成平角、WW集成平角及びカラマツ集成平角は3ヵ月連続して横ばい。RW集成平角は2月の横ばいが、3月は弱含み、4月は横ばい。米ヒバ土台角は2月、3月の弱含みが、4月は横ばい。

モニターからのコメント

(構造用集成材荷動き)

・年末から継続して荷動きは好調。公共物件は現在少ないが、増税前の駆け込みに備えるための需要となっている模様。12月より受注が増加し、2月もフル稼働。3月以降も同等の出荷量となる見込み。

・ラミナ事情により、生産量を調整。出荷は生産に準ずる。

・国産材構造用集成材の生産は、生産日少な目となる。ある程度の在庫も確保するための極端な減産には至らない。米ヒバ集成土台角は、販売量の落込みと共に生産量もやや減少する見込み。全体的な需要の落込みに引きずられる形で、出荷量はやや減少する。

(構造用集成材出荷価格動向)

・スギ集成管柱は、一般流通価格が弱含みのため大手ハウスメーカーも大きな値戻しはない。そのため概ね横ばいとなる見通し。カラマツラミナは継続的に高値安定のため、製品価格も横ばいである。

・RW平角は弱くなる見込み。

・需要が旺盛な時期ではないので出荷価格は横ばい、もしくはやや下落になる見込み。原料価格は横ばいもしくはやや上昇するが、出荷価格は全く上昇が見込めず。製材及び加工工場は引き続き厳しい局面が続く。